

九州のいちごカタログ

～海外の消費者・バイヤー、九州へのインバウンドの方々へ～

このカタログは、九州で生産されているいちごについて、
品種の果実の特性を分かりやすく解説するとともに、
市町村別の生産地をマッピングしております。
海外の消費者へ商品を届けるバイヤーの皆様、九州各地を
訪問されるインバウンドの方々への参考となれば幸いです。

2025年1月 更新版



いちごの歴史



いちごが日本に伝来したのは江戸時代後期（1850年頃～1870年頃）でオランダから持ち込まれました。

しかし、いちご（学名：Fragaria × ananassa）は、地中海性気候を好むバラ科の植物であるため、日本の高温多湿下での露地栽培では、収穫期が限定される上に、病気や害虫の被害を受けやすいため、栽培が広がりませんでした。

その後、米国カリフォルニア州から1950年頃に「ダナー」という品種が導入されたところ、品質が良いことから関東をはじめとして全国的に広がっていき、それまでの主要品種であった幸玉に取って代わりました。また、その頃からビニールハウスの促成栽培が普及し、ダナーは半促成栽培向きの品種であったことも広がった要因と言われています。一方、九州地方は、暖かい気候であり、これまで導入されたダナー、福羽、幸玉、宝交早生などの品種は、関東地方を中心に普及しており、耐暑性の品種が求められていたため、1967年に農林省園芸試験場久留米支場が「はるのか」を育成しました。この品種は暖地で栽培しやすい品種で、九州地方全域にいちごの栽培が広がっていきました。その後、1980年代に早出し用の品種として「女峰」が開発されましたが、北関東地域に適応した品種であったため、さらに果色、食味、芳香に優れ、早期収量の多い「とよのか」が九州で開発され、九州全域にも広がっていき、1990年頃には我が国全体で女峰ととよのかで9割のシェアを占めました。

現在も、農研機構（国の研究機関）や各県の公設試験場による品種開発が進められています。食味、色や大きさ、ジューシーさのほか耐暑性、耐病虫害性など、いろいろな特長を持つ品種が九州各県で開発され、県下に普及しています。



九州で栽培されている主ないちごの品種

佐賀県

- いちごさん ®
(佐賀i9号)

福岡県

- あまおう ®

大分県

- ベリーツ ®
(大分6号)
- さがほのか

長崎県

- ゆめのか
- 恋みのり
- さちのか

宮崎県

- さがほのか 等

熊本県

- ゆうべに
(熊本VS03)
- ひのしずく
(熊研い548)
- 恋みのり
- さがほのか

鹿児島県

- さつまおとめ
- ぴかいちご ® (かごしま6号)
- 恋みのり
- さがほのか
- とよのか
- さつまおとめ
- 紅ほっぺ



[illegible]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
あまおう®	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	●
いちごさん®	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	●
ゆめのか	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●
恋みのり	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	●	●
ベリーツ®	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●
ゆうべに	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●
ひのしずく	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●
さがほのか	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●
さつまおとめ	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	●
ぴかいちご®	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●



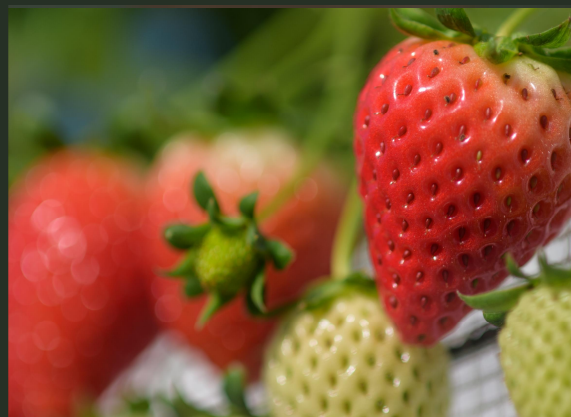
あまおう®

福岡県ではもともと「とよのか」の栽培が盛んでした。とよのかは、大粒で香りがよく、酸味と甘味のバランスがよいのが特徴でしたが、寒さに弱く、着色や大きさが未熟なまま成熟してしまうという欠点があり、見た目が悪いという弱点がありました。そこで、福岡県農林業総合試験場による品種開発が進み、1999年に「あまおう」（品種名：福岡S6号）は誕生しました。とよのかよりも大きく、厳寒期でも赤く色づくというメリットがあり、安定した収穫ができるようになったため、栽培が一気に広がりました。福岡県及びJA全農ふくれんの取組により、福岡県内限定の栽培・品質でブランドを守っています。

品種の主な特性

- 「あまおう」は、あかい、まるい、おおきい、うまいの頭文字を採って名付けられました。
- 形は鋭い三角形ではなく、コロンとしており丸みを帯びています。
- 他のいちごと比べて、大粒のものが多いです。
- 色づきは、他のいちごと比べて、やや濃い紅色です。
- 果皮に光沢があり、張りがあってツヤツヤしています。
- 香りは、桃のような爽やかな香りが微かにあります
- 他のいちごと比べて水分が多く、ジューシーさがあります。
- 甘味と酸味のバランスが絶妙で奥深い味わいがします。
- 大粒のあまおうは、濃厚さ、甘さ、酸味のバランスが一番とれていると感じられます。





いちごさん[®]

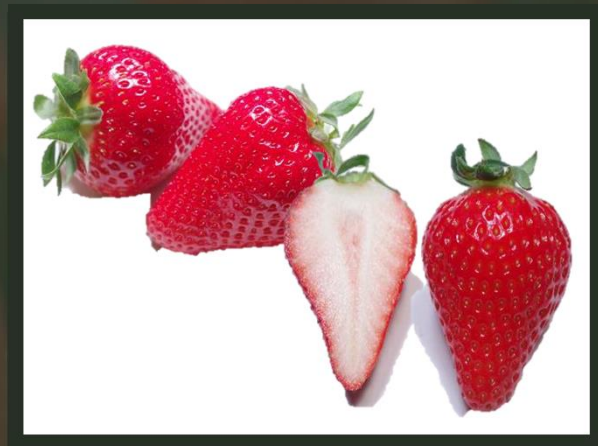
九州地方を中心に全国的に普及している“さがほのか”は、早生で連続出蕾性があり、果形の揃いが良く、適度な硬さで日持ち性に優れるなどの特性を持つとても優良な品種でした。しかしながら、糖度が時期によりやや低く、果数が少なく早期収量が少ないことなどの課題がありました。

このため、佐賀県農業試験研究センターが、7年もの年月をかけ、様々な品種の交配、15,000株以上の中から選抜を繰り返した結果、果皮の色が濃く、食味が良好で、多収量を実現した「いちごさん」（品種名：佐賀i9号）が2016年に誕生しました。

品種の主な特性

- 「いちごさん」の名称は「長く愛されるいちごとなることを願って、呼びやすく覚えやすい、清々しさとインパクトを合わせ持つ名前」として決められました。
- 果実は円錐形で、揃いも良いです。
- 果実の大きさはやや大きいです。
- 果皮は濃い赤色で、果肉まで赤色に染まるのが特徴です。
- 糖度は“さがほのか”と同程度で、適度な酸味と爽やかな香りがあります。
- 総合すると、やさしい甘味があり、果肉はみずみずしくて香りがよく、食味と見た目の良さを兼ね備えている品種です。





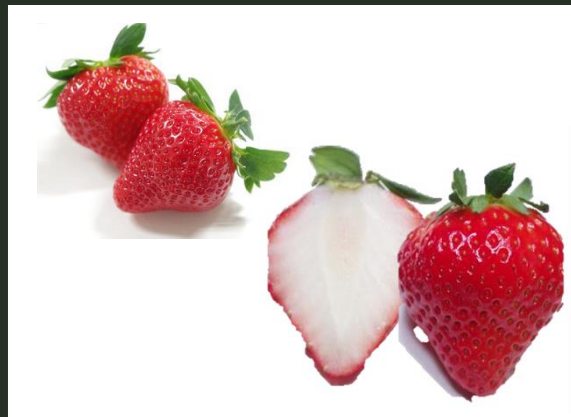
ゆめのか

「ゆめのか」は愛知県が育成し、2007年に品種登録された品種です。長崎県では2012年から栽培が開始され、それまで作られていた「さちのか」からの品種の転換が進みました。長崎県内の栽培面積は2023年度で111ha（品種構成比56%）と県内で一番多く栽培されています。「ゆめのか」という名前は、「みんなの夢が叶うおいしいいちご」というのが由来です。

品種の主な特性

- 形は、大玉の円錐形です。
- 果皮は色むらもなく、鮮やかな紅色でツヤがあり、果肉、果心は淡い赤色です。
- 完熟した状態でも果肉が程よい硬さで、果皮が硬いため、輸送性と日持ち性に優れています。
- 果肉はジューシーで糖度と酸度のバランスが良く、さわやかな食味です。





恋みのり

「恋みのり」は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が育成し、2020年に品種登録された品種です。

長崎県では2017年から島原半島で試作が開始され県内の栽培面積は年々増加し、2023年度には88haまで拡大しています。

「恋みのり」という名前は、収量が多いこと、そして「いちごを通して託された願いが叶うようにとの願いが込められている」というのが由来です。

品種の主な特性

- 恋みのりの果実は短円錐～円錐形で、やや丸みがあり、大玉です。
- 果皮は鮮やかな淡赤色～赤色でツヤがあり、果肉は白色です。
- 香り豊かで、甘味と酸味が調和しています。
- 寒い時期は特に日持ち性が良いため、輸出に向けた品種として注目されています。





ベリーツ®

「ベリーツ」（品種名：大分6号）は、従来栽培されていた品種よりも美味しく、より美しい果実を目指して、大分県が8年もの歳月をかけて開発したオリジナルブランドいちごです。名前の由来は「スイーツみたいなストロベリー」の造語です。従来の品種と比べ、高い糖度と適度な酸味で香りが良く、早い時期から収穫できるのが特徴で、国内のいくつかの有力品種の長所を活かしながら、絶妙なバランスで交配されています。また、ベリーツらしさにこだわったロゴやパッケージは“ハレの日”を包むものとしてデザインされ、華やかさが演出されています。

品種の主な特性

- やや縦長で端正ないちごらしい形をしています。
- 大玉がたくさんできるので、贈答用商品も揃えています。
- 色づきは、鮮やかな濃い赤色で、ツヤがあります。
- 一口食べると、芳醇な香りが口いっぱいに広がります。
- 豊潤な果汁があふれ出すみずみずしいいちごです。
- 甘さと酸味のバランスがよく、上品な味わいで、いちご本来のおいしさが際立ちます。
- 12月から2月にかけて最盛期を迎え、この間高い糖度が維持されます。





ゆうべに

「ゆうべに」は熊本県が開発した品種で、2015年から栽培されています。これまでの品種よりも収量が多く、果実品質に優れる品種を開発するため、9年の歳月を重ねて誕生しました。

名前は熊本の「熊（ゆう）」といちごの「紅（べに）色」が由来となっており、一般公募を行い、5178件の応募の中から選ばれました。華やかさと上品さをイメージして名付けられています。

品種の主な特性

- 果実は円錐形で揃いが良く、スマートで美しい形をしています。
- 果実肥大性も良く、果実の粒が大きいことが特徴です。
- 果皮色は鮮やかな赤色をしており、断面は赤味を帯びています。
- 甘さと酸味のバランスが絶妙で、上品な味わいがあります。
- 芳醇な香りがあり、果汁たっぷりの瑞々しい食感のいちごです。
- 美しい見た目とバランスの良い食味、強い香りを持つ熊本県イチオシの品種です。





ひのしずく

「ひのしずく」は熊本県が開発した最初のいちごの品種で、2005年から栽培されています。

県オリジナルのいちご品種を育成するため、1995年から品種開発に取り組み、10年かけて誕生した品種です。

名前は熊本県の水がきれいなイメージといちごの瑞々しいイメージから名づけられています。

品種の主な特性

- 果形は短円錐～円錐形でやや丸みを帯びていて、可愛らしい形をしています。
- 果皮色は鮮やかな赤色で光沢があり、果実は大粒です。
- 高い糖度とほどよい酸味で食味が良いため、贈答用として利用されることが多いです。
- 甘い香りが強く、食べた後も余韻が残ります。
- 生産量が少なく希少価値が高い品種となっています。





さがほのか

「さがほのか」は、佐賀県が開発し、2001年に品種登録された品種ですが、生産地を佐賀県内に限定しなかったことから、日本全体と九州地方全域に栽培が広がりました。

特に宮崎県では、「さがほのか」の収量性や栽培管理のしやすさなどから普及し、豊富な日照条件を活かして沿海部から内陸部まで広く栽培されています。

品種の主な特性

- 果実が大きく、円錐形をしています。
- 果皮は鮮やかな赤色でつやがあります。
- 酸味は弱めで、生長時に暖かい環境で栽培すると香りと甘みが増します。
- 果実は堅めなため、傷みにくく、輸送性や日持ち性に優れています。





さつまおとめ

「さつまおとめ」は鹿児島県が育成し、1998年に誕生した品種です。その頃鹿児島県で栽培されていた品種は、栽培後半の高温期になると酸味が強まり、食味が低下するとともに小玉になりやすいなど品質が低下するという課題がありました。このため、高温条件下でも品質低下が少なく、かつ、果実が大きく、硬くて食味に優れ、収穫・選果の省力化できる品種を開発しました。

品種の主な特性

- 果形は長円錐形で良く整い、そう果の落ち込みは小さいです。
- 果実が大きく（平均20g）、揃いは良いです。
- 果皮は鮮紅色で“とよのか”よりやや濃く、光沢があります。果肉色は白（淡黄）です。
- 香りは中程度ですが、成熟後は時間を経過するとともに香りが強くなります。
- 糖度は“とよのか”と同程度かやや高く、酸度が低い（糖酸比が高い）ため、とても甘く感じます。
- 硬さは、やや硬く、日持ち性や輸送性に優れます。





ぴかいちご®

「ぴかいちご」は鹿児島県が育成し、2018年に誕生した品種です。良食味で早生多収の品種を目指し、様々な品種の特性を調査するとともに、様々な組合せの交配を行いつつ、その中から系統選抜を続け、早期収量及び総収量が多く、糖度が高く酸味が少ない良食味の「ぴかいちご」（品種名：鹿児島6号）を開発しました。

品種の主な特性

- 果形は円錐形で揃いが良いです。
- 果実はやや大きめです。
- 色づきについて、果皮は肩部まで赤く、色むらのない完全着色タイプです。
- 糖度は比較的高く、酸度は控えめであり、爽やかな味わいで食味に優れています。「味よし、見た目よし」の品種であるとも言われています。
- 硬さは、収穫直後は硬いです。





ありがとうございました

九州農政局

yushutu_sokusin-kyushu@maff.go.jp

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/>